

生活の中にこそ機能訓練を!

～自然にできる機能訓練導入への取り組み～

優秀賞

第1分科会 科学的介護の実践(高品質サービスの追求)アウトカム評価の指標づくり
分科会⑤ 医行為・リハビリテーションの実践
介護老人福祉施設みどりの園(鹿児島県)

箕浦知世さん(理学療法士)

当 施設では個別的リハビリを実施しているが、入所者の生活の一部として動作練習ができないかを検討した。

まず、入所者の身体機能面、ADL、認知機能面、転倒・転落のリスクなどを各専門職で評価。リハビリテーションサポートチーム(RST)を立ち上げ、現状の把握と情報共有を図った。次に、過介助にならないためのケア方法の検討と周知、活動性アップにつながる移動手段の検討を行った。


その後、入所者が起きてから寝るまでの間に行っている食事やトイレ、静養、アクティビティなどの動作のなかから訓練士が会得すべき動作を抽出するとともに、ニーズを聞き出し、その実現に向けて必要な動作の抽出を行った。

たとえば、80歳女性のW・Tさんは長期入院による廃用性の筋力低下があり、トイレ介助に介護職が二人必要だった。日常的に車イスを使っていたが、移動以外はイスに移ってもらうようにし、立ち




箕浦知世さん

上がりの機会を増やし、足の筋力アップをめざした。イスに座ることで、座位が安定し体幹も安定。



はじめに



介護老人福祉施設入所者様の日々の生活を分析し、機能訓練へ繋がる要素を見つけ、**いつのまにか生活の一部**として必要な機能訓練が提供できないか検討し、取り組んだ成果と課題についてここに報告する。

<http://www.midori-net.or.jp> 2015

この取り組みの結果、現在では歩行車を使えば自力歩行ができるようになった。

本人は、できるだけ夫の側にいたいという希望を持っており、ADLが向上したことで外出や外泊が実現した。

今後も、全職員が入所者の日々の様子を観察し、変化に気づく目を養いながら、こうした取り組みの重要性を理解したうえで、毎日実践し続ける必要がある。

奨励賞

特別養護
広島原爆養護ホーム
神田山やすらぎ園
(広島県)
新谷龍一さん
特別養護老人ホーム
みかんの丘
(熊本県)
右田 大さん